

原発事故 風評被害なくすには

舞子高で復興庁が出前授業 生徒ら班に分かれて議論

2011年の東日本大震災や福島第1原発事故について復興庁の担当者が伝える出前授業が、神戸市垂水区の舞子高校であった。1995年の阪神・淡路大震災を機に開設された同校環境防災科の1〜3年生約120人が受講。原発事故による風評被害をどうなくすかなどを考えた。

(末吉佳希)

神戸

出前授業は、東日本大震災から11年が過ぎ、風化が懸念される中、震災の経験や原発事故について若い世代に伝えようと、同庁が企画した。全国9カ所の特色ある高校を対象に続けており、同校は7校目になる。

授業では同庁原子力災害復興班の徳増伸二参事官が講義。地震が発生してから津波が町を襲うまでの経緯や、原子炉建屋で起きた水素爆発の詳細、インフラ復興の過程などを説明した。徳増参事官は、原発の廃炉に向けた取り組みについても解説。溶融核燃料(デブリ)を冷やすための注水などで生じた大量の汚染水を多核種除去設備(ALPS)で浄化する手法や、処理水

を安全に海に放出するための方針などを伝えた。

生徒は、原発事故に伴い広がった風評被害の払拭に向け、どんなことに取り組んだらよいか各班で議論。

「福島県産の食品を実際に食べてSNS(交流サイト)で安全性を発信する」などの意見が上がった。

3年の中田愛香さん(17)は「自分たちも被災地支援のために物品販売や募金を続けてきた。今後は、情報を正しく選び、発信する活動などもできれば」と話した。



復興庁の徳増伸二さん(左奥)の前で原発事故の風評被害をどうなくすかについて発表する生徒＝神戸市垂水区学が丘3